後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　施策評価シート

１．基本情報

基本目標	2	学び合い、志を育むまちづくり	担当部	教育委員会
基本施策	1	「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策名称	3	児童生徒一人一人の自立を目指した就学支援の充実		
施策の方向性	●多様なニーズに対応した教育機会を提供し、児童生徒一人一人の自立を目指した就学支援の充実を図ります。			

２．施策目標（施策指標）

No.	目標指標	単位	区分	計画策定時の状況	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
1	「授業がよく分かる」と答える児童生徒の割合（小学校）	%	目標値		86.2	86.4	86.6	86.8	87.0
			実績値	85.5	83.2	85.3	82.6	83.5	84.0
			達成状況		未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
2	「授業がよく分かる」と答える児童生徒の割合（中学校）	%	目標値		76.2	76.4	76.6	76.8	77.0
			実績値	72.1	80.2	73.5	75.7	75.2	75.0
			達成状況		達成	未達成	未達成	未達成	未達成
3			目標値						
			実績値						
			達成状況						

３．評価と対応方針（各部評価）

・分析

（施策目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）

R3	小学校の目標は未達成でしたが、中学校の目標は達成しました。 特別支援教育アドバイザーの配置や中学校区でスクールカウンセラー等の配置を行うとともに、小中連携を図りました。
R4	小学校・中学校ともに目標は達成できませんでした。 特別支援教育アドバイザーの配置や中学校区でスクールカウンセラー等の配置を行うとともに、小中連携を図りました。
R5	教員の働き方改革を進めてはいますが、小学校・中学校ともに目標値未達成となりました。 昨年度対比、小学校は2．7ポイント低下しましたが、中学校は2．2ポイント上昇し、目標値達成まであと0．9ポイントでした。
R6	小学校・中学校ともに目標値未達成となりました。 教育支援員を2名増員するとともに、引き続きスクールカウンセラーや特別支援教育アドバイザーを配置するなど、児童生徒一人一人に応じた支援を行いました。
R7	小学校・中学校ともに目標値未達成となりました。 教育支援員を3名増員しスクールカウンセラーの配置時間を増加するとともに、引き続き特別支援教育アドバイザーを配置するなど、児童生徒一人一人に応じた支援を行いました。

・評価及び対応方針

R3	
R4	今後も、児童生徒一人一人に応じた教育支援の充実を図ります。
R5	学校運営改善に係る事務事業の成果が、児童生徒の授業の理解力・納得力へ結び付いていないことを示していると思われますが、向かうべき方向が異なっているとは考え難く、事務事業の継続が必要であると考えます。
R6	引き続き、教育支援員、特別支援教育アドバイザー、スクールカウンセラー、青少年教育相談員を配置し、教育相談体制の充実を図ります。
R7	引き続き、教育支援員、特別支援教育アドバイザー、スクールカウンセラー、青少年教育相談員を配置するとともに、町教育支援センターの指導体制の見直しや校内教育支援センターに青少年教育相談員を配置するなど、今後も、児童生徒一人一人に応じた教育支援の充実を図ります。

【参考】施策の推進に要したコスト（事務事業）　（単位:千円）

No.	事業名称	R3	R4	R5	R6	R7	計
1	学校運営改善推進事業	23,072	22,001	23,824	26,206	25,829	120,932
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
合計		23,072	22,001	23,824	26,206	25,829	120,932

後期実施計画（令和３年度～令和７年度）　事務事業評価シート

１．基本情報

総合戦略 ○

事務事業の名称	学校運営改善推進事業	事業番号	213101
担当部署名	教育委員会　　学校教育課		
政策体系			
基本目標	2 学び合い、志を育むまちづくり		
基本施策	1 「志」の教育　信頼される学校教育の確立		
単位施策	3 児童生徒一人一人の自立を目指した就学支援の充実		

２．活動実績

年度	活動実績
R3	○ 配慮が必要な児童及び保護者に小学校段階から継続的にカウンセリングできるよう小・中学校で同じスクールカウンセラーを配置しました。県費、町費を合わせ3名を配置（週4日程度）しました。 ○ 校務に係る業務負担軽減を図るため、スクールサポートスタッフを配置しました。5校は県費、2校は町費で配置しました。（3学期から7校とも県費となりました。）
R4	○ 引き続き一人のスクールカウンセラーが小・中両校を担当することで、配慮が必要な児童及び保護者に対し、小学校段階から継続的にカウンセリングできるよう努めました。県費、町費を合わせ3名を配置（週4日程度）しました。 ○ 校務に係る業務負担軽減を図るため、引き続き校務支援システムを活用するとともに、全校にスクールサポートスタッフを配置しました。
R5	○ 引き続き一人のスクールカウンセラーが小中両校を担当することで、配慮が必要な児童及び保護者に対し、小学校段階から継続的にカウンセリングできるよう努めました。県費、町費を合わせ3名を配置（週4日程度）しました。 ○ 校務に係る業務負担軽減を図るため、引き続き校務支援システムを活用するとともに、全校にスクールサポートスタッフを配置しました。 ○ 部活動地域移行に向けた体制を整えました。
R6	○ 引き続き一人のスクールカウンセラーが小中両校を担当することで、配慮が必要な児童及び保護者に対し、小学校段階から継続的にカウンセリングできるよう努めました。県費、町費を合わせ3名を配置（週4日程度）しました。 ○ 校務に係る業務負担軽減を図るため、引き続き校務支援システムを活用するとともに、全校にスクールサポートスタッフを配置しました。 ○ 部活動地域移行に向けた体制を整えました。
R7	○ 引き続き一人のスクールカウンセラーが小中両校を担当することで、配慮が必要な児童及び保護者に対し、小学校段階から継続的にカウンセリングできるよう努めました。県費、町費を合わせ3名を配置（週4日程度）しました。 ○ 校務に係る業務負担軽減を図るため、引き続き校務支援システムを活用するとともに、全校にスクールサポートスタッフを配置しました。 ○ 引き続き部活動地域移行に向けた体制を整えました。 ○ 教職員の働きやすさと働きがいの両立と質の高い教育の実現に向けて、府中町立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保実施計画を策定しました。

３．事業目標（事業指標）

No.	指標名称	単位	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	100人当たりの不登校児童数の割合（小学校）	%	目標値	0.57以下	0.57以下	0.57以下	0.57以下	0.57以下
			実績値	1.33	1.95	2.02	1.88	2.12
			達成状況	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
②	100人当たりの不登校生徒数の割合（中学校）	%	目標値	2.10以下	2.10以下	2.10以下	2.10以下	2.10以下
			実績値	3.32	5.10	5.70	5.56	5.02
			達成状況	未達成	未達成	未達成	未達成	未達成
③			目標値					
			実績値					
			達成状況					
④			目標値					
			実績値					
			達成状況					
指標の設定方法			きめ細やかな教育支援が目的のため、100人当たりの不登校児童生徒数の割合を指標としました。					

４．コスト情報（決算）

（単位：千円）

区分	事業費合計	財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	一般財源
R3	23,072	0	527	0	0	22,545
R4	22,001	0	0	0	0	22,001
R5	23,824	703	703	0	0	22,418
R6	26,206	589	1,623	0	0	23,994
R7	25,829	1,098	1,821	0	0	22,910
合計	120,932	2,390	4,674	0	0	113,868

5．評価と対応方針（各課評価）

・分析

	（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）
R3	小・中学校ともに事業目標が未達成でした。コロナ禍により、これまでのように関わり合う教育活動を仕組むことが難しく人間関係を築く機会が減ったことや家庭環境の変化などが要因と考えられるため、今後もスクールカウンセラー等とも連携をしながら「新しい生活様式」の中で個に応じた教育活動を進めていきます。
R4	小・中学校ともに事業目標が未達成でした。要因としては、コロナ禍により、他者と関わり合う教育活動を編成することが難しく人間関係を築く機会が減ったことや、家庭環境の急激な変化などが考えられます。
R5	小・中学校ともに事業目標が未達成でした。児童会・生徒会の取組を進め、魅力ある学校づくりを進めるとともに、各校及び学校教育課において相談体制を構築しました。不登校の要因は様々で生活リズムの不調や学校生活に対してやる気が出ないなどが見られました。
R6	小・中学校ともに事業目標が未達成でした。児童会・生徒会の取組を進め、魅力ある学校づくりを進めるとともに、各学校及び学校教育課において相談体制を構築しました。
R7	小・中学校ともに事業目標が未達成でした。児童会・生徒会の取組を進め、魅力ある学校づくりを進めるとともに、各学校及び学校教育課において相談体制を構築しました。

・評価及び対応方針

R3	今後も、きめ細やかな教育支援を行います。
R4	今後もスクールカウンセラー等と連携しながら、個々の状況をきめ細やかに把握して要因を探り、個に応じた教育活動を進めます。
R5	今後もスクールカウンセラー等と連携しながら、個々の状況をきめ細かに把握して要因を探り、個に応じた教育活動を進めます。
R6	今後もスクールカウンセラー等と連携しながら、個々の状況をきめ細かに把握して要因を探り、個に応じた教育活動を進めます。
R7	今後も教育支援員、特別支援教育アドバイザー、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、青少年教育相談員等と連携しながら、個々の状況をきめ細やかに把握し、個に応じた教育活動を進めます。

6．評価と対応方針（各部評価）

・分析

	（事業目標達成・未達成の要因、前年度評価を踏まえた見直し状況、新たに発生した課題・環境変化等）
R3	小・中学校ともに事業目標が未達成でした。コロナ禍により、これまでのように関わり合う教育活動を仕組むことが難しく人間関係を築く機会が減ったことや家庭環境の変化などが要因と考えられるため、今後もスクールカウンセラー等とも連携をしながら「新しい生活様式」の中で個に応じた教育活動を進めていきます。
R4	小・中学校ともに昨年度より不登校児童生徒が増加し、事業目標が未達成となりました。全国的にも不登校児童生徒は増加傾向にあり、広島県においても同様の傾向にあります。
R5	小学校・中学校ともに3年連続目標値未達成であるとともに、実績値は年々悪化しています。 コロナ禍における「新しい生活様式」の解消を背景として、児童生徒同士の関わりが増加したことが一要因であると推察しますが、不登校の原因は個々の児童生徒で異なります。
R6	小学校・中学校ともに目標値未達成でしたが、実績値は前年度より好転しました。
R7	小学校・中学校ともに目標値未達成でしたが、中学校の実績値は前年度より向上しました。

・評価及び対応方針

R3	今後も、きめ細やかな教育支援を行います。
R4	今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しながら、個々の状況をきめ細やかに把握し、支援につなげていくことが必要と考えます。
R5	本事業の本義は、教員がきめ細かな児童生徒の支援を行うことができるよう、教員の負担軽減を図ることであり、着実に推進しているものと考えています。 しかし、指標の性質上、その低減に直接結び付けるのは困難で、目標値と実績値の乖離を埋め切れないのが現状です。
R6	本事業の本義は、教員がきめ細かな児童生徒の支援を行うことができるよう、教員の負担軽減を図ることであり、着実に推進しているものと考えています。 しかし、指標の性質上、その低減に直接結び付けるのは困難で、目標値と実績値の乖離を埋め切れないのが現状です。
R7	本事業の本義は、教員がきめ細かな児童生徒の支援を行うことができるよう、教員の負担軽減を図ることであり、着実に推進しているものと考えています。 しかし、指標の性質上、その低減に直接結び付けるのは困難で、目標値と実績値の乖離を埋め切れないのが現状です。